



こどもの
世界文学



ロダーリ, ジャンニ

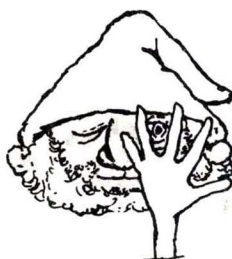
こどもの世界文学 26 神宮輝夫 ほか 編集

パジャマをきた宇宙人

講談社 1972

238p 24cm

ジャンニ = ロダーリ

こどもの世界文学 **26**

う ち ゆ う じ ん

パジャマをきた宇宙人

昭和47年5月16日 第1刷発行

昭和50年1月25日 第3刷発行

作 者 ジャンニ = ロダーリ

訳 者 安藤美紀夫

発行者 野間省一

発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽 2-12-21

電話 東京 (03) 945-1111 (大代表)

郵便番号112 振替東京3930

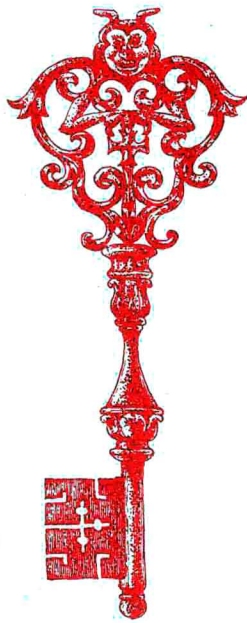
印刷所 図書印刷株式会社

製本所 図書印刷株式会社

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

Printed in Japan

(児1)

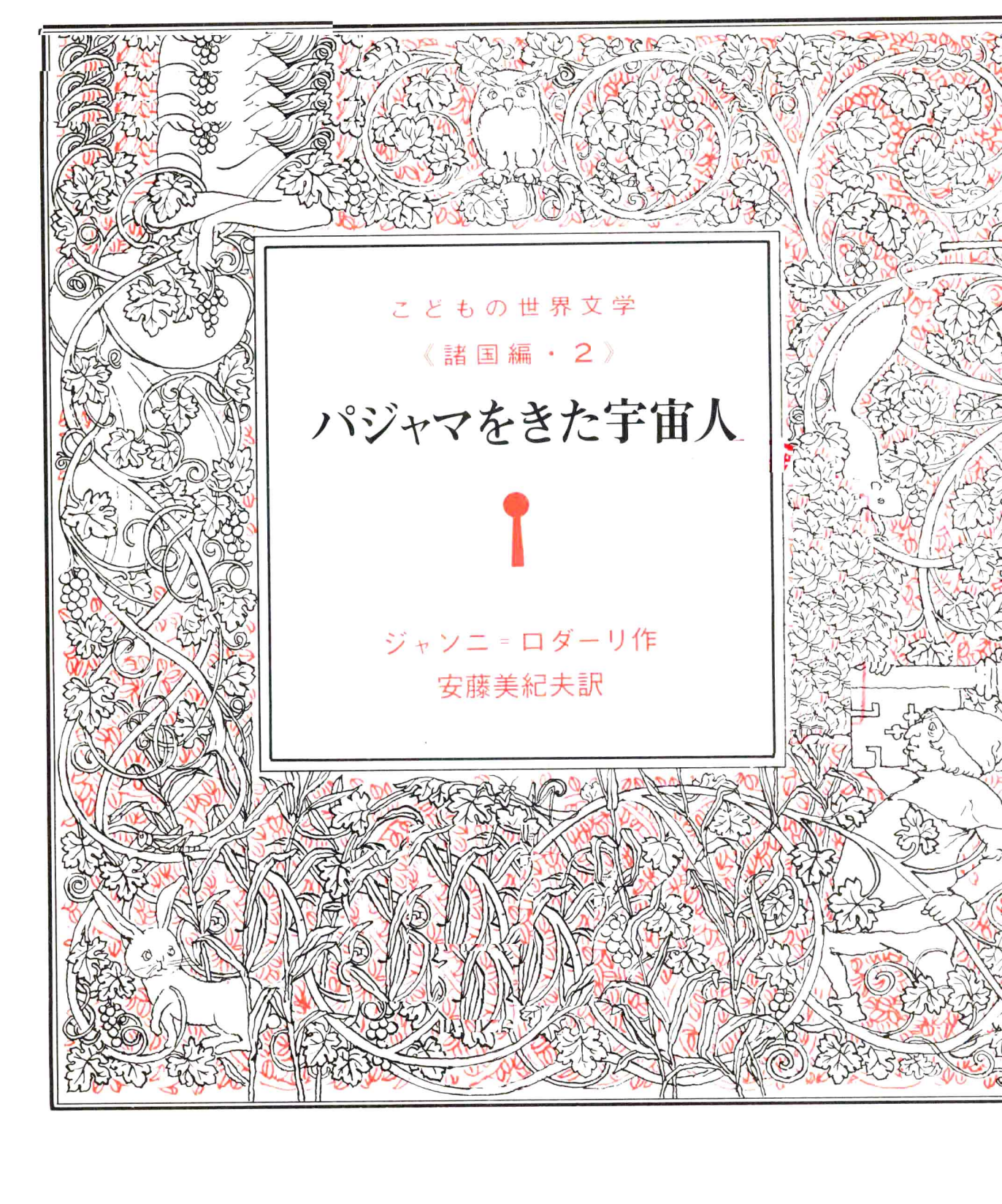




サン＝ピエール城（イタリア）







こどもの世界文学

《諸国編・2》

パジャマをきた宇宙人

ジャンニ＝ロダーリ作

安藤美紀夫訳

もくじ

キャプテン、空にだれかがおぼれています……………10

もとパウルスさん……………16
セレーナ星……………23

木馬……………28
宇宙犬がやってきた……………34

パジャマで、しつれい……………40
ガイドはおちびさん……………47

ふうがわりなカレンダー……………52
みんな、ぶっこわせ……………64

動くベンチ……………71
どろぼうさん、ご自由に……………75

オカネヲハラウってなんのこと……………80
雨は、はっかのおかしです……………90

法律は、めいめいかってにつくります……………96

エテルレドウスさんが、くじびきにかちました……………100

あきかんをけとばしたら……………104
目がさめてみると……………107

ロボットはあみものができるか……………113

十七番をよんでみました……………119

マルコも、新聞をぬすんでみました……………121



おもちゃ屋の店さきで……………127

きみなら、皇帝になりたいか……………135

めずらしいものずきの店……………142

マルコは、宇宙骨を発明します……………147

マルコの雪像……………152

こんどこそ、にがすもんか……………164

あるのかないのかわからない政府の宮殿……………168

マルクス総理大臣……………174

五年H組……………180

木馬を地球へおくるのは……………187

にげろ、マルコ！……………192

四十五番格納庫で……………199

テストタッチョへ帰れます……………201

すずらんのおいのするほこり……………204

物語を読んだあとで

無口ではにかみやさん、ロダーリおじさん……………210

安藤美紀夫……………210

長ぐつ半島の国イタリアから……………215

ジュリアーノⅡカデロ……………215

世界の妖精物語……………220

神宮輝夫……………220

「パジャマをきた宇宙人」の読書会から……………223

北川幸比古……………223

おかあさんのためのイタリア児童文学史……………229

安藤美紀夫……………229

訳者・画家の横顔……………234



Il Pianeta degli alberi di Natale
by
Gianni Rodari
Copyright © 1962 Giulio Einaudi editore s.p.a., Torino
Japanese translation rights arranged through
Charles E. Tuttle Co. Inc., Tokyo, 1971.

扉 写 真 オリオン プレス	さ し え 安 田 謙	扉 安 野 光 雅	装 本 大 橋 正
--------------------------------	------------------------------------	---------------------------	-------------------------------

（日本編）
鳥越 信
塚原 亮一
安藤 美紀夫
関 楠生
神宮 輝夫
《責任編集》

パジャマをきた宇宙人

ジョンニ＝ロダーリ作

安藤美紀夫訳

安田謙絵



キャプテン、空にだれかがおぼれています

「キャプテン、空に、だれかがおぼれています。」

「どっちのほうだ。」

「しっほのほうです、キャプテン。」

「早く、三眼鏡をよこせ。」

(ちょっと、おやすみ。)

わたしが、はじめて、この物語をしたとき、「三眼鏡」といったとたんに、ひとりの紳士が口をはさんで、わたしの話のじゃまをしました。

「おわかいのはじめから、まずいな。空にだれかがおぼれています、とはなんだ。まったくおかしい。『海にだれかがおぼれています。』といわなくちゃならんことぐらい、





子どもだって知^しつとる。二ばんめに、しっぽのほう、とはなんだ。しっぽなんてのは、ろばについてとるやつだぞ。キャプテンが、ろばのはらの中^{なか}の司令室^{しれいしつ}にいるなんて、ちょっと考^{かんが}えられんことだ。さいごに、ちょっと説^{せつ}明^{めい}してもらいたいんだが、『三眼鏡^{さんがんきやう}』とはなんだ。双^{そう}眼^{がん}鏡^{きやう}にこぶでもついとるのか。」

「博士^{はくし}。」

と、わたしはいいました。その紳士^{しんし}は、ネクタイをしめて、ちゃんとアイロンのかかったズボンははいていましたから、まずまちがはなく博士^{はくし}さまです。ローマでは、そんなかつこうをしている人^{ひと}は、たいてい博士^{はくし}のかたがきをもっている人^{ひと}なのです。

「博士^{はくし}。」と、わたしはもういちどいいました。

「このばあい、わたしは、あんまりいそいで、右^{みぎ}か左^{ひだり}かなどと、はつきりさせたくはないんですがね。」

「じゃ、しっぽのほうつてのは、なんだね。」

と、紳士^{しんし}は、また口^{くち}をはさみました。

わたしは、ここでけんかをしてもしようがないと、しずかにいいました。

「いいですか。わたしが、いまお話^{はなし}したふたりのことばは、遠^{とほ}い宇宙^{うちゅう}の惑星^{わくせい}のあいだを飛^とんでいる宇宙船^{うちゅうせん}の中^{なか}でかわされてることばなんですよ。いまは、まわりには、海^{うみ}もな



ければ、湖もなく、ただ、空があるだけ。目がいたくなるような、まっ黒な空。

これだけいえば、そんなに頭をつかわなくても、ふたりのことばかり、だいたいけんとうはつくでしょう。宇宙船の中の見はりが、後尾燈のあかりの中に、ふらふらしている人を見つけたんですよ。こういうばあい、やっぱり『空にだれかがおぼれています。』というほかないでしょう。ちがいますか。

もうひとつのひみつもしやべってしましましょう。どういうわけかは、これからおいおいとわかるでしょうが、とにかく、この宇宙船は、うまのかたちをしていたんです。うまにしっぽがあったって、だれもへんだとは思わないでしょう。それに、星のなかになんてしっぽのあるのはあるでしょう。ほうき星みたいだね。宇宙でだって、しっぽってことばは、ちゃんとつうようするんですよ。

じゃ、三眼鏡のことを説明しましょうか。どんなものだか、お知りになりたいんでしょう。そいつは、双眼鏡を改良したものでしてね、三つめの筒が、頭の上をぐるぐるまわって、うしろのほうにもレンズがむくんです。だから、わざわざふりむかなくても、宇宙船のうしろが見られます。うしろ、というかわりに、しっぽのほう、ともいいますがね。

わたしの考えだと、こいつは、ずいぶんやくにたつ発明だと思えますね。たとえば、

